

1 「おおくす芦名堰の森」保全・活用に関する三者連携協定締結

市長

このたび、公益財団法人ニッセイ緑の財団さん、公益財団法人日本自然保護協会さんの三者で、環境大臣による「自然共生サイト」認定が決定した『おおくす芦名堰の森』における、保全・活用に向けた連携協定を先ほど締結させていただきました。大変うれしく思っています。

まず、今回の三者協定締結までの経緯を簡単に説明致します。現在、横須賀市では、長坂緑地を中心に里山的環境保全活用事業を実施していますが、日本自然保護協会さんには、既に「民官連携里山エリア」の構成員として御協力をいただいております。また、日本自然保護協会さんには、今年度初旬にニッセイ緑の財団さんを御紹介いただきました。今回の連携協定により、自然保護活動に関する幅広い知見を活かした、達観的な指導、助言をいただく予定です。ニッセイ緑の財団さんは、日本全国で、30年以上に渡り植樹や「森林づくり」を通じた環境教育を実践されている財団です。実は、これまで芦名堰で環境保全活動を行っていたボランティア団体が、今年度末をもって解散することが決定し、市としても、来年度以降の管理に苦慮していたところ、ニッセイ緑の財団さんに手を挙げていただき、引き継いで下さることになりました。ニッセイ緑の財団さんは、既にボランティア団体と一緒に活動をされています。2月27日付で、芦名堰の自然共生サイト認定が決定しましたので、これを良い機会として捉えさせていただき、連携協定締結に至りました。ニッセイ緑の財団さんの「森林づくり」の経験値をフルに活用いただき、「おおくす芦名堰の森」でカワセミやフクロウ、ホタルなどまさに多様な生物が生息する場で、ネイチャーポジティブに取り組んでいただければ、幸いです。

市民アンケートでも横須賀市に住み続けたい理由に「温暖な気候と海や緑などの豊かな自然」が1位と2位を占めており、横須賀市のかげがえのない自然環境を保全・回復する「ネイチャーポジティブ」の実現に向け、大きな力になって下さると考えています。そして私たち三者が協力して、未来の世代に、より良い環境を残していくことが、私たち三者の想いです。これから、資料に記載した取り組みを実施していくこととなりますが、これだけにとどまらず、互いの発展に向けて、連携の輪をさらに広げていきたいと思っています。

公益財団法人ニッセイ緑の財団 清水理事長

ただいま御紹介にあずかりました、公益財団法人ニッセイ緑の財団の清水です。本日は、お忙しいところ横須賀市様、公益財団法人日本自然保護協会様との三者協定締結式へお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、このような場を設けていただきました上地市長、ありがとうございます。

当財団は、「緑の保護・育成に努め、もっと幅広く環境の保全に資する」ことを目的として、1993年に設立された財団です。以来、全国各地で植樹・育樹を行う中で、地域の生態系保全も意識し、広葉樹を含む郷土樹種を取り入れた森林づくりを進めてまいりました。森はCO2の吸収・水源かん養・土砂災害防止など多様な公益的機能を担っていますが、同時に多様な動植物の生育・生息場所でもあり、ネイチャーポジティブの実現に向けて、大きな役割を果たしています。

サステナブルな社会の実現が重要視される中、ニッセイ緑の財団の新たな取り組みとして、生物多様性の保全に資する里山づくりへの取り組みを開始したいと思い、日本自然保護協会様に御相談したところ、横須賀市様より芦名堰を御紹介いただき、活動してきたところです。

今年度、地域住民団体の方々と共に外来植物の駆除活動や生物調査を行ってまいりましたが、本日の協定締結に先駆けて、環境省より自然共生サイト認定決定の御連絡をいただくことができました。本日に至るまでさまざまな御配慮・御協力をいただきました横須賀市様・日本自然保護協会様に改めて御礼申し上げます。

本日、三者協定を締結させていただきますが、芦名堰が今後もさまざまな動植物にとって、より良い環境となり、地域の住民の方々の憩いの場ともなるよう取り組んでまいります。また、全国各地でネイチャーポジティブに向けた貢献をできるよう芦名堰での活動を今後の財団活動に活かしてまいりたいと考えています。本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。今後ともよろしく願い申し上げます。

公益財団法人日本自然保護協会 志村執行理事・事務局長

御紹介いただきました公益財団法人日本自然保護協会、執行理事・事務局長の志村智子でございます。本日、芦名堰におけるネイチャーポジティブの実現へ向けた連携協定を締結するに至りましたことを、関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

日本自然保護協会は、1949年、昭和24年に、尾瀬ヶ原を守りたいという活動から始まった自然保護団体です。その後、「日本自然保護協会」と発展改組して今日に至っています。上地市長が御紹介下さったとおり、当会は、長坂緑地の里山保全活動に企業の皆さまを御案内しながら、地域の皆さまと一緒に活動をさせていただいております。そんなご縁もありまして、長年当会の会員であるニッセイ緑の財団様から里山保全活動地の御相談をうけた際、真っ先に横須賀市の皆さまの活動が目につきました。それで御連絡差し上げた次第です。ニッセイ緑の財団様の活動への熱い思い、そして横須賀市様のあたたかい御協力があったからこそ、今日を迎えることができたと思っております。

生物多様性の損失は気候変動と並ぶ世界における深刻な課題の一つです。なかでも里地里山と呼ばれる環境における生物多様性の荒廃が大きな問題になっています。この状況に対処するには、自治体や企業、各種団体そして地域の皆さまなど、さまざまなセクターが連携し、取り組みを強化していく必要があります。清水理事長の御挨拶にもありましたように、横須賀市様、ニッセイ緑の財団様と、三者協定という形が生まれたことで、芦名堰での取り組みが横須賀市の他のエリアや全国各地に発展していくよう、より力強くネイチャーポジティブの実現へ向けて取り組んで行ければと考えています。これからの活動に、ぜひ御注目いただければと思います。本日はありがとうございました。

■質疑応答

記者

環境省の自然共生サイトの認定は県内で何箇所目ですか。

建設部長

神奈川県内では、18箇所が指定されております。横須賀市内では今回のおおくす芦名堰を含め、4箇所です。

記者

この認定後に、何か特別なお披露目のようなイベントはありますか。

建設部長

特に大きなイベントは考えていませんが、環境活動の一環として、近隣にお住まいの方や近隣の小学生といった方々と共に何かできたらなどは考えています。

記者

一般の方がここを散策することは可能ですか。

建設部長

可能です。

記者

おおくす芦名堰の森の特徴はどのようなところでしょうか。資料に、認定される上での価値が書いてありますが、どのようなところが評価されているのか、保全するに値するとされているのか、どのようにお考えでしょうか。

ニッセイ緑の財団

自然共生サイト認定にあたり、現地で動植物などの調査を行い、認定基準上、どのような特徴があるかを評価したところです。お手元の資料にも記載がございますが、一つは、里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場。次に、生態系サービスを提供する場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場、そしてもう一つ、希少な動植物種が生息生育している場、あるいは生息生育している可能性が高い場。最後に、越冬、休息、繁殖、採餌、移動など、動物の生活史にとって重要な場というような評価です。それぞれ動植物の調査をした結果、このような評価をして申請させていただいています。

記者

あまり言うと、人が殺到する可能性もあるので言いづらい部分もあるとは思いますが、写真にあるようなカワセミのような動物など、どのような珍しい動植物が生息しているか教えていただけますか。

ニッセイ緑の財団

申請前の段階での調査結果となりますが、植物はシロダモ、カラスザンショウなど 123 種類、鳥類はカルガモ、カワセミなど 17 種類、昆虫類はギンヤンマなど 73 種類を確認しています。この中に希少な動植物も含まれていますが、お話にあったとおり盗採や捕獲のリスクもあることから、一般的には公開を控えさせていただいておりますので、御理解いただければと思います。もちろん希少な生物は何種類か生息しています。

市長

とにかくすごいということです。

記者

資料に記載してあるシロダモやカラスザンショウ、カワセミはそれほど珍しくはないということでしょうか。

ニッセイ緑の財団

在来種で、典型的な里地里山に生息しているような動植物とお考えください。希少種ではないけれども、そういうもので構成されている生態系が貴重だと御理解いただければと思います。

記者

表記上、希少な動植物がいることで、間違いはないでしょうか。

ニッセイ緑の財団

左様です。

市長

是非、一回、行っていただいて、感じていただければと思います。

日本自然保護協会

特別なものがあるということよりは、この里山が人の管理によってより良くされていくということが、このネイチャーポジティブの趣旨です。三浦半島の中の横須賀でも、ため池は、昔は農業の用水として各地にありました。農家の人たちが、定期的に管理、かいぼりをして、ため池が維持されてきましたが、今は農業用水として使われていません。このおおくす芦名堰も農業用水としては使われていません。各地でため池が使われなくなることによって、ブラックバスなどの外来種が移入される、水が溜まらなくなってしまうことで水生生物がいなくなってしまう、そのように普通にいたものがだんだんいなくなってきました。したがって、今回、芦名堰に人の手が加わることによって、トキワツユクサなどの外来種を駆除する、ごみを取り除く、そのように管理されていくことがすごく価値があり、意味があります。ネイチャーポジティブに向けて意味があると御理解いただければと思います。

記者

外来種の駆除は、これまでの活動でもやられていたと先ほど説明されてきました。植物・動物含めて、トキワツユクサの他にも心配される外来種はあるのでしょうか。

日本自然保護協会

環境省、農水省で選定している生態系被害防止外来種という対策が必要な外来種概念があり、これに該当する外来種は、植物では、今話題にありましたトキワツユクサやツルニチニチソウなど 10 種類ほど確認しています。動物は、法律上の特定外来生物、また生態系被害防止外来種に該当するものが、アメリカザリガニなど 3 種類ほどおります。

記者

ボランティア協会が今年度末で解散するとのことでした。そこで、今後についてお聞きします。今後はニッセイ緑の財団さんだけで管理を行うのではなく、市民のボランティアが関与できる状況は続くのでしょうか。また参加したい方がいたらボランティアには参加できるのでしょうか。里山としての復興ということであると、例えば、昔のような活用ということでしたら、水田の復活や、間伐材の利用などがあると思います。将来的にそうしたことを想定しているのでしょうか。

建設部長

市民ボランティアについては、個人の参加になりますが今後も活動できると考えています。水田については、場所が堰ですので、水田を作ることはなかなかないのかなと思っています。また、大きい木がそれほど生えていないと聞いていますので、間伐材がどこまで発生するのかわかりませんが、リサイクルなどできることに協力していきたいと思います。

記者

この自然共生サイトは全国で 300 件ぐらいあるみたいですがけれども、ニッセイ緑の財団さんと日本自然保護協会さんは、その内どのくらい自治体と連携協定を締結しているのでしょうか。

日本自然保護協会

当会は、自然共生サイトには限らずではありますが、自治体とは3箇所ほど連携協定を結んでおります。一つは群馬県みなかみ町です。こちらは三菱地所さんと三者で連携協定を結んでおります。また、もう一つは、埼玉県所沢市です。こちらはNTT ドコモさんと連携協定を結んでいます。

記者

今回、横須賀市とニッセイ緑の財団さんと組んだ理由は何かありますか。

建設部長

先ほど冒頭でも少し御説明しましたが、日本自然保護協会さんとは、これまでも一緒に活動させていただいておりました。その中で、ニッセイ緑の財団さんがフィールドを探している、とのお話を自然保護協会さんからいただきました。そして、横須賀市と三者で市内を巡り、御覧いただき、この場所が一番いいとのことで、今回、協定に至りました。

記者

ニッセイ緑の財団さんは自然共生サイト 300 件のうち、どれくらい関わりがありますか。

ニッセイ緑の財団

今回のおおくす芦名堰の森が初めてです。

2 三笠公園リニューアル事業 Park-PFI 基本協定締結

市長

本日、よこすか三笠パートナーズの皆さんと、三笠公園のリニューアルとその後の管理運営を行っていただく基本協定を締結致しました。非常に意義深い日を迎えられたことを、大変嬉しく思っております。

本日は、今回のプロジェクトの代表企業である大和リースさんこれまで本市の公園事業に御尽力いただいている西武造園さん市内企業である伊之崎さんさらには市外からも、アーバンデザインコンサルタンツさん、それぞれの皆さまにお越しいただいております。こうした心強い四社の事業者の皆さまと、基本協定の締結を迎えられたことに心より感謝申し上げます。

今回のプロジェクトは、本市の長井海の手公園ソレイユの丘に続き、民官連携制度を活用することで、公園の管理と運営に新たな息吹をもたらすものです。そのため、事業者の皆さまの創造力と専門性には大きな期待を寄せていまして、共に成功を目指してこの計画を推進してまいります。

皆さま御承知のとおり、三笠公園は、記念艦三笠を含め本市の象徴的な存在でございます。長年、市民や観光客の皆さまに親しまれ、地域のイベントや観光行事の舞台として、本市の魅力を発信し続けてきましたが、この公園で生まれた数々の思い出とともに、さらなる発展の機会を迎えております。

このプロジェクトにより、公園の顔となるエントランス空間を開放的にするとともに、最大の特徴である東京湾や猿島を臨むロケーションを活かしたカフェなどの民間収益施設の導入し、多目的な空間も確保します。あわせて、音楽、そしてアーバンスポーツなどの多種多様なイベントを実施することで、さらに多くの皆さまにとって心躍る魅力的な場所となることを確信しています。また、リニューアルオープンから3年以内を目途として、年間100回以上のイベントを実施し、現在の年間来園者数、約190万人を250万人まで増やすという大変心強い提案もいただいております。市民の皆さまには、この新たな三笠公園を今まで以上に楽しんでいただきたいと願っております。

このプロジェクトを通じて、三笠公園が周辺施設や人々の交流を深め、新しい文化や活力を生み出す場としてさらに成長していくことを心から期待しております。地域の皆さまとの連携を大切にしながら、この計画を成功に導くよう、私たちも全力を尽くします。

最後に、改めて本日の協定締結に関わる全ての方々に感謝を申し上げます。市と事業者が丸となり、三笠公園をより豊かにし、皆さまと共に、本市の未来を築いていけることを楽しみにしております。本日は誠にありがとうございます。

大和リース株式会社 横浜支社 角一支社長

本事業に選定いただきました、よこすか三笠パートナーズ代表企業・大和リース株式会社の角一でございます。大和リースは、大和ハウス工業のグループ会社で、全国でPark-PFI等の公園関連事業に取り組んでおります。現在36公園 950ヘクタールを超える公園の整備運営の実績があり、多くのPFI・PPPによる公民連携施設を整備して参りました。この度の三笠公園では、当社をはじめ、西武造園、アーバンデザインコンサルタンツ、伊之崎の皆さまとグループを構成し、リニューアル整備と運営を行います。

リニューアル事業のコンセプトとしましては、三笠公園を「人がつながり、心をつなぎ、未来を創る。“WA”が広がる公園を掲げ、横須賀の魅力を創造・発信する拠点「YOKOSUKA “WA” PARK」をキーワードにリニューアルに取り組ませていただきます。カフェや軽飲食の店舗や芝生広場・ふわふわドームなどの遊具、イベントに利用するステージや大屋根を新設致します。新設した公園施設を基に指定管理者として20年間の運営に携わらせていただき、三笠公園と周辺施設・地域と連携し、新たな賑わいを創る、さまざまなイベントを実施したいと考えております。

世界三大記念艦の三笠が鎮座し、日本の都市公園、歴史公園100選に選ばれた日本を代表する、この三笠公園の再整備に携われることを誇りに思い、三笠公園で人がつながり、心をつなぎ、“WA”

を広げ、横須賀ならではのカルチャーや新たな魅力が発信されることで、横須賀の未来を創る公園で、地域の活性化・課題解決への貢献に向け、整備・運営して参りたいと存じております。

本日は、どうぞよろしくお願い致します。

西武造園株式会社 大嶋取締役社長

よこすか三笠パートナーズ構成企業の1社であります、西武造園株式会社の大嶋と申します。この度は「よこすかルートミュージアム」の重要なサテライトの一つであります、日本の都市公園としても歴史公園としても存在価値が高く、風光明媚な当公園の集客・交流拠点機能拡充事業に参画でき、大変光栄に思っております。

弊社は2006年に三笠公園に指定管理者制度が導入されて以来、今日まで指定管理者の代表企業として関わっております。横須賀市では、その他、ヴェルニー公園や市営公園墓地、くりはま花の国やうみかぜ公園等にも関わっており、横須賀市は弊社にとっても特別に愛着のある自治体の一つです。今後、当公園のさらなる魅力向上のために、代表企業である大和リース様をはじめ、伊之崎様アーバンデザインコンサルタント様、他の構成員と共に、プランの再整備・調整、施工計画、施工管理を行い、にぎわい創出、来訪者・利用者のWell-beingに寄与する空間の創造を具現化していきたいと考えております。

最後に私事ですが、約40年前、入社間もない頃、現状の三笠公園築造の初期段階に関わらせていただきました。また、祖父は海軍兵学校第37期、最後の海軍大将井上成美と同期でした。早期に退役したので少佐止まりでしたが、中尉時代に、横須賀防備隊分隊長、駆逐艦不知火、薄雲の艦長を務めた記録もあり、このような関わりが持てますことに、本当に感銘深く感じております。一生懸命進めていきたいと思っております。行政の関係部署の方々には引き続きの御指導、御鞭撻のほどをお願いし、御挨拶に替えさせていただきます。本日はありがとうございます。

株式会社伊之崎 高木代表取締役

横須賀市内の企業であります株式会社伊之崎の高木と申します。弊社は昭和59年に行われた三笠公園の大規模改修に関わったこと、そして、このたび令和のリニューアル事業にも関わることを大変誇りに思っております。安全を第一にリニューアル工事を全うし、横須賀の魅力を創造・発信する拠点として新たな三笠公園を創造致します。以上、簡単ではございますが、御挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございます。

株式会社アーバンデザインコンサルタント 望月代表取締役

株式会社アーバンデザインコンサルタントと申します。我々は建物以外の公園施設の設計を今回はさせていただくこととなります。今回の事業に参加させていただくことになりまして、本当にありがたいことだと思っております。三笠公園がさらに多くの価値を持った公園となるように、力を注いでまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

■質疑応答

記者

現在の三笠公園にある噴水がなくなるとのことですが、野外ステージはどうなりますか。

建設部長

撤去となります。

記者

これまであそこでいろいろな音楽イベントが開かれたと思います。ステージが撤去された後は、どこで音楽をすることになるのでしょうか。

大和リース株式会社 横浜支社 角一支社長

現状の音楽ステージは撤去させていただきますが、今の音楽噴水池の所に新たに大屋根を設置します。また、公園奥の壁泉部分に屋根を付けた形で新たなステージを作ります。

記者

ステージが新たにできるということでしょうか。

大和リース株式会社 横浜支社 角一支社長

おっしゃるとおりです。

記者

公園のリニューアル自体には直接は関係ないとは思いますが、記念艦三笠の老朽化が非常に進んでいます。なかなか予算もついていない状況ですが、今年度から何年間かでペンキの塗り替えと甲板の修繕はなんとかできるだろうとのことでした。ただ、根本的なところで、地中に埋まって海水に浸かっている下半分のところが全く手が付けられない状況であるとのことでした。このままいけば1、2年というわけではありませんが、おそらく、将来的には三笠があのままでは保存ができなくなる。下が朽ちてしまう危惧があると聞いています。記念艦三笠について、将来的に市で、あるいは今回協定を締結される皆さまで何とかしようという意思表示はできないものなのでしょうか。

市長

それを私もずっと考えていて、国に働きかけをしなくてはならないし、この連携協定の中で何かできることがあって、国に対して申し入れることがあれば、五者でできることがあれば、私も個人的に国に働きかけているところですので、やってみたいとは思っています。

ただ、今おっしゃられたようにどれくらいの耐用年数があるのかまだわからない状況の中で、進めていくこととなります。大切な拠点なので、考えていかなければならないと思っています。何とか国に働きかけをしていきたいと考えています。

記者

私が聞いたところでは、毎年地下に埋まっているところが0.1から0.2ミリずつ朽ちていっているとのことでした。このままいけば100年もたないだろうと聞いています。すぐにどうこうというわけではありませんが、やはり非常に歴史のある船ですから、ぜひ残してもらえればと思います。

記者

これは公募で決まったのでしょうか。

建設部長

おっしゃるとおりです。

記者

何社の応募がありましたか。

建設部長

グループとしては1グループの応募でした。

記者

大和リースさんのグループだけであったということですね。

建設部長

おっしゃるとおりです。

記者

ピースフェスティバルのように、市民団体もよくこの公園を使っていると思います。市民団体への提供もこれまでどおり続けていくのでしょうか。

建設部長

続けていく予定です。

記者

芝生の面積と大屋根の縦と横の大きさがわかれば教えていただけますか。

大和リース株式会社

芝生の面積は、3,000 平米を予定しています。大屋根は、現状 500 平米前後を予定しています。

記者

噴水があるところに芝生ができるのでしょうか。

大和リース

現状の音楽施設がある海辺側に芝生広場を設けます。

記者

噴水があるところにどのようになるのでしょうか。

大和リース

噴水の所に、大屋根がかかります。

記者

遊具施設のふわふわドームとは、どういった施設でしょうか。

大和リース

コンプレッサーで空気を送り込み、テントの幕のようなもので膨らみ、お子様が飛び跳ねたりできるようなものです。

記者

昭和 36 年に開園して昭和 59 年に大規模改修をしたとのことですが、その大規模改修はどのようなことをやったのでしょうか。また、その後のリニューアルなどの流れはどのようなものなのでしょうか。

建設部長

昭和 59 年度から 61 年度まで改修を行い、その際に 1.9 ヘクタールほど拡張しています。それを含めて、当時、全面のリニューアルを行いました。その後は大きなリニューアルは行っておらず、施設の維持管理をしてきました。

記者

昭和 61 年以降は、今の形ということでしょうか。

建設部長

おっしゃるとおりです。

記者

1.9 ヘクタールの拡張は、どの辺りが拡張されたのでしょうか。

建設部長

主に海側の部分です。

記者

全体の広さをもう一度確認させていただきますか。

建設部長

今の都市公園面積が、約 3.14 ヘクタールです。なお、先ほど申し上げた拡張面積の詳細は、1.86 ヘクタールです。

記者

大屋根を作るとのことですが、災害時の備蓄を保管する予定などがありますか。

建設部長

今のところ予定はありません。

市長

いろいろと検討しましたが、海側ということもあり被災する可能性もあります。

記者

リニューアルオープンの時期はいつ頃でしょうか。

建設部長

令和 9 年の 3 月末のオープンを予定しています。

記者

ここはすべて市の土地ですか。

建設部長

そうです。

市長

ようやくこのエリアが完成します。ポートマーケットに始まり、猿島で新しいコンセプトで作り上げ、歴史のある記念艦三笠がある三笠公園が新しくなる。その 3 箇所でさまざまな仕掛けづくりをし、いろいろな人に来ていただくことが、私が当初から描いていたことでしたので、やっとここまでできたなど嬉しく思っています。

記者

市民はいつまでは入れて、いつから工事が始まり閉鎖となりますか。

建設部長

6月頃までは現状のままとなります。7月頃から一部の工事が始まりますが、記念艦三笠やその前の広場は、市民に開放しながらリニューアル工事を進める予定です。ただ、一部の期間については、閉鎖することもあるかもしれませんが、記念艦三笠やその前の広場は、開けたまま工事する予定です。

記者

市民が使えるということでしょうか。

建設部長

おっしゃるとおりです。

■案件以外の質疑応答

記者

先月 13 日に小沢一彦商工会議所名誉会頭が亡くなられ、27 日に牧島功元神奈川県議会議員が亡くられました。経済界、政治の世界で横須賀を支えた重鎮お二人が相次いで亡くなられたことについて、エピソード等があれば市長の口からお聞きできればと思います。

市長

まずは非常に残念です。経済界で、政界で、横須賀を支え、歴史を創ってきた巨星であるお二人が亡くなったことは本当に残念で沈痛な思いです。

小沢さんと初めてお会いしたのは田川さんの関係でした。横須賀のみならず、日本あるいは世界に名が轟いた経済界の大物であったと思っています。非常に可愛がっていただきました。私の出身、出自は自民党ではなかったのですが、目をかけていただいて、8年前の市長選挙に立候補した時も多大な御声援と御支持をいただいたことをありがたく思っています。小沢さんは、さまざまな意味で、私たちにとっても、横須賀にとどまらない、素晴らしい経済界の星でしたので、これから、もう一度その足跡をたどりながら、何が横須賀のためになるのかと考えていきます。いつも横須賀のことを思っていたらっしゃった方でしたので、私に課された責任は大きいと思っています。

牧島さんは、高校の先輩でもあり、若い時からしのぎを削りあった仲です。素晴らしい経験を持っていて、弁舌もさわやか。圧倒的な存在感で神奈川県のみならず日本全国にも名が轟いていた方です。先輩であると同時に、私にとっては憧れでもあり、政治をやっていく上で目指すべき方でもありました。私が田川系だったこともあり、牧島さんとは戦った仲でしたが、認めていただいています。牧島さんは、8年前に市長選に出馬した時も、「お前しかいないだろ」と、一番初めに声をかけていただきました。「残されたのはお前しかいない」との言葉にぐらっときました。ある意味、彼らしいまい乗せ方だと思います。策士といいますか、物凄く広い視野で物事を捉えていましたので、さすがだなと思いました。その時には「私などでは」とお答えしたのですが、牧島さんのおかげで流れができて、熟考した上で、「やらせていただきます」と真っ先に牧島さんにお話をしました。少なからずいた田川系が保守合同で一本になった、かつて戦っていた保守系の勢力が一本にまとまったという意味では、本来の横須賀の流れに戻り、私が代表をしていることは本当に牧島さんのおかげだと思っています。本当に素晴らしい人だったと思います。

記者

うわまち病院が久里浜の方に移転しました。うわまち病院周辺の商店街の活性化をどのように考えていますか。海側は三笠公園や高層マンションが駅前に建ち始めて、人が動いてきていると思うのですが、坂の上の方はどうもシャッター通りのような印象です。市長は、うわまち病院移転後、あの周辺をどのように活性化させようとお考えなのかお聞かせください。

市長

都市計画もいろいろと考えていかなければならないと思います。はじめは上町がどうなるのかということでしたが、話し合いをし、学校ができるということで、御理解をいただいている状況です。これからどうしていくかは考えていかなければならないと思っています。ただ幸いなことに、横須賀市外の若い年代の方が、素晴らしい感性で「なるほどな」と思うようなお店を上町で出し始めています。その方たちの支援もしないといけませんし、以前から上町でお店を営んでいる方々とどうやって連携をしていくかもあわせて考えていきたいと思っています。補助も含め、考えていかなければならないことがたくさんあるのではないかと思います。

記者

来年度の当初予算に上町エリアへの補助金に関することが記載されていましたが、それはどういっ

たところに充てていくイメージをされていますか。

経営企画部長

今回は商店街に対する補助金を拡充し、イベントなどを複数回できるような補助金を考えています。

市長

いろいろな団体があるので、にぎわいづくりで、その仕掛けに補助すると御理解いただければと思います。

記者

2月に深田台で米軍による交通事故があり、国からの事故の報告が遅くなったということがありました。それについての所感をお聞かせください。

市長

まずは事故にあわれた方に心からお見舞い申し上げます。事故が発生してから、国から横須賀市に連絡が来るまで約3週間かかりました。国に対しては速やかに情報提供するように担当から申し入れしました。国に確認したところ、米側と適切にやりとりをしているが、個別の事案に関する日米間のやりとりについては米側との関係もあり、お答えを差し控えると回答がありました。しかし、いずれにせよ、速やかな情報提供が必要であると日ごろから申し上げています。改めて国に申し入れたと御理解いただければと思います。

記者

今回の件について、遅いなと思いましたか。

市長

当然です。申し入れというよりクレームです。事故があった場合は、真っ先に知らせていただかなければならないという話になっていますので、重大な信義違反だと思っています。

記者

昨年9月の事故についても起訴されましたが、それについてはいかがでしょうか。

市長特命参与

現在起訴中ですので、回答は控えさせていただきます。

記者

米側から国への連絡が遅れたのでしょうか。

市長特命参与

米側から国への連絡が遅れたということではなく、あくまで国から市への情報提供が遅れたということです。米側から国へ連絡があったかなかったか、またその時期については、言及されませんでした。

記者

連絡が遅れたことの原因について明言されなかったことへの市長の御所感はいかがでしょう。

市長

それぞれの事情があるのですが、あくまで個別の事案に関するやりとりは米側との関係もあるため差し控えるとの回答ですので、そのように理解しています。